



B U N K A Z O U K E I



**P1**

卒業研究優秀作品

**P15**

特色ある教育プログラム

**P23**

学外連携活動報告

## ごあいさつ

文化学園大学の建学の精神は「新しい美と文化の創造」です。造形学部では、この理念のもとに生活文化や住環境の観点から「造形」をとらえ、生活の質の向上に貢献できる人材を育成しています。本学部は2学科から構成されており、デザイン・造形学科では、生活に関わる感性豊かなデザインや造形を提案するための教育研究を、また、建築・インテリア学科では、快適な生活空間を提案するための教育研究を展開しています。本報告集は、造形学部のこれらの教育研究のうち、特に教育活動に焦点をあてて、1年間の主だった活動を取りまとめたものです。

本報告集では、卒業年次生全員が取り組む卒業研究（作品・論文）の成果を紹介する『卒業研究優秀作品』、造形学部の『特色ある教育プログラム』、地域や産業界と連携した『学外連携活動』について報告させていただきます。多くの皆様に本報告集をご覧いただき、ご意見、ご感想をいただいて、本学部の新たな発展につなげてまいりたく存じます。

本学部の教育事業に日頃からご協力いただいております多くの方々から心から御礼申し上げますとともに、今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

造形学部長 渡邊 秀俊

## デザイン・造形学科

本学科では、1、2年次に基礎授業で造形力や表現力を磨きます。3年次からは専門の3コースに別れて、グラフィックデザイン、生活用品や雑貨のデザイン、書籍の編集、映像やアニメーション制作、ジュエリー・金工・七宝のデザインと制作に取り組みます。4年次の卒業研究では、学生各自が1年間に渡って制作に取り組み、作品を発表します。今年度は、実習・演習の授業では、オンラインを併用した教室での対面授業を工夫して、感染防止に努めながら、地域や産業界と連携した授業も行いました。この学修の成果をご紹介申し上げます。

## 建築・インテリア学科

本学科では、建築とインテリアにかかわる幅広い知識と技能を身につけ、今日の社会的な課題を自ら発見して、生活者の視点から論理的かつ創造的に提案できる人材の育成を目指しています。3年次からは、建築デザインとインテリアデザインの2コースに分かれて実践的な設計課題に取り組みます。また、4年次の卒業研究では、学生が自分の関心をもとに研究テーマを設定し、コースの枠を超えて指導教員を主体的に選択し、1年間をかけて作品制作や論文執筆に挑みます。本書にて、学生たちの取り組みの成果の一端を紹介させていただきます。

# 卒業研究優秀作品

卒業研究は4年間の学びの集大成として、4年生全員が各自の研究テーマを設定し、1年間かけて作品制作や論文執筆に取り組みます。これらの研究成果は例年本学で開催される卒業研究展で展示されますが、昨年に引き続き今年もオンラインで展示公開されることになりました。優秀作品は各コースから数点選出され、各コースの最も優れた作品1点に学長賞が授与されます。



E x c e l l e n t A n t h o l o g y

C	o	n	t	e	n	t	s
卒業研究優秀作品	1	特色ある教育プログラム	15	学外連携活動報告	23		
メディア映像クリエイションコース	2	専門教育科目(1、2年次)	16	地域連携活動報告	24		
グラフィック・プロダクトデザインコース	4	専門教育科目(3、4年次)	18	産学連携活動報告	26		
ジュエリー・メタルデザインコース	6	デザイン・造形学科	20	学生の受賞	31		
インテリアデザインコース	8	建築・インテリア学科	22				
建築デザインコース	10						
卒業研究タイトル一覧	12						
卒業研究展2021年度の取り組み	14						



# Yowatari-jozu

小守 優衣子

映像作品(動画データ) Illustrator, AfterEffects  
1920 × 1080px、4分45秒



主人公の生活の変化を表すグラフやアイコン



タイトル



1人で歩く主人公



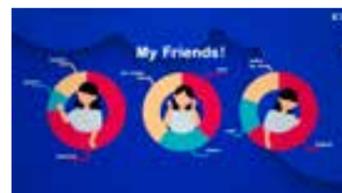
!?!?



Stress meter



物語に関わる男子生徒



データ化された世界へ

## 解説

キャラクターの感情や行動をセリフや表情など具体的な描写を使わず、代わりにインフォグラフィックスを用いて表現したアニメーションです。コミュニケーションが上手く出来なかったり、人からの些細な言葉に苦しむ主人公が、思っていることや言いたいことを表現したり処理するためにグラフやアイコンを使います。また、進むにつれて画面に映るものが簡略化されていく表現は、思春期の不安定で移り変わりやすい感情とそれに対する変化を表しています。

## プロセス

キャラクターデザインをした後、絵コンテを制作。キャラクターやインフォグラフィックスなどアニメーション内の全てのイラストをIllustratorで制作し、AfterEffectsでモーションをつけました。Illustratorでキャラクターを描く時は体で動かす予定の部位ごとにレイヤー分けして作って行きました。また、このアニメーションオリジナルのインフォグラフィックスのデザインもしました。

## 講評

自分の主張や感情を、言語化せず図式化・数値化し、不必要なコミュニケーションを徹底的に排してしまう事。互いの顔をむき合わせる機会が極端に減ったオンライン禍の現代と重なります。この作品は、便利さとその弊害を味わった世代だからこそ生まれた作品だと思います。作画、アニメはすべてPCでの作業でしたが、CG特有の冷たさを感じさせず、真摯に作品に向き合った小守さんの熱量を感じました。

## 私源 -SHIGEN-

言葉と視覚表現の相乗効果を追求した映像の研究

風早 真実

実写映像作品 Adobe Premiere Pro  
1920 × 1080px、13分40秒

## 解説

とりとめなく時にうまくいかない毎日の中で、出会ったものや感じたことの全てが私の源になり得るというメッセージを込めた。日常生活を通して感じたことを言葉におこし、それを基にした映像を制作。春夏秋冬を軸にした1分程度の動画を12話合わせて一つの作品にまとめ、オムニバス風の形式で表現した。コミカルで明るく、それでいて暗い部分も感じられるような、親しみやすい雰囲気の作品を目指した。



文字と映像を合わせ、視覚的表現の相乗効果をねらった



本作の導入として、観ている人に訴えかける表現になるよう工夫した



私源 -SHIGEN- 「shigen」より抜粋

## 少年ファイター

坂上 鈴果

無線綴じ くるみ製本 表紙/コート紙  
本文/コート紙、コミック紙 網 B5判

## 解説

「少年ファイター」と言う架空の少年漫画雑誌を制作。大学4年間で執筆した読切の少年漫画を掲載。実際の少年誌に近づけられるよう、形はもちろん、中身の構成もしっかり追求。さらに、4年間の集大成と言うこともあり、時系列に作品を展開させたことによって、作者と共に成長過程を感じることができる。



漫画がメインであることを意識した一枚



少年誌の体裁をよりリアルに再現

## HaraKe プロジェクト

原 柚香

コンセプトブック: B5判 76頁  
くるみ製本 / 本文 アラベール 90  
スノーホワイト、表紙 マットポスト  
220 マットPP加工  
季節のカタログ: 148 × 100mm  
中綴じ / 新バファン紙 120 網

## 解説

家族のハンドメイド雑貨をブランドとして立ち上げ、企画から宣伝、販売を行った。コンセプトブックやカタログなど、冊子を中心にメディア媒体を制作。また、通信販売、SNSの運用、e-bookを制作することで、場所を問わず商品に触れてもらえる機会を作った。制作物のメインであるコンセプトブックは、販売商品やHaraKeのこだわり、活動についてなど全てをまとめた一冊となっている。作品や活動を通して、商品の魅力や家族の温かみをお伝えできたらと思う。



全76ページのコンセプトブックは、販売の際に商品と共に展示

Web上でも閲覧可能に



コンセプトブック、季節のミニカタログ、シーズボックス、カードなど幅広く展開



## 暮らしの中で季節を感じられる商品の ブランディングデザイン

中島 琴音

外箱:70×70×25mm 石鹸:65×65×20mm(約60g) ショップカード:55×91mm



### 解説

日本には四季があり、年中行事や四季折々の自然の変化から季節感を味わうことができる。コロナ禍により行動が制限されたことで失われた季節感を、新たな視点から生活に取り入れることはできないだろうかと考え、感染予防として手洗いの場面が増えたことに着目し、「手を洗う」という行動から季節を感じられる手作り石鹸のオンラインショップのブランディングを行った。「暮らしの中に季節感をプラスする」をコンセプトに12カ月分の石鹸とパッケージをデザインした。

### プロセス

普段の生活の中で人はどんなことで季節を感じているのかを調べ、そこから浮かび上がってきた「年中行事」をテーマに、行事ごとの抽象的な柄の石鹸を制作した。また、オンラインショップでの販売を想定しWebサイトを制作、石鹸の制作過程と紹介動画を載せ、季節が移りゆくイメージで作曲した音楽を動画に添えることで、ブランドの世界観をより感じてもらえるようにした。さらに、SNSへの掲載を想定した画像を12カ月分用意し、ショップカードにも展開した。

### 講評

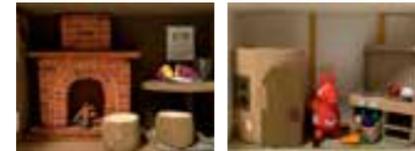
COVID-19で生活は一変し、季節を感じられないまま時間が過ぎていく。そんな味気ない日常において、感染対策として手を洗う行為にその解決を見出した視点が素晴らしく、中島さんの日々の暮らしを心豊かに楽しみたいという想いが垣間見える。3年次から続くオンライン授業、学生同士の交流制限とモチベーション維持が極めて困難な中、計画性を持って細部にまでこだわり抜いた作品は、彼女の強靭な精神力の賜物だろう。

## 私的メモリーボックスの制作

安河内 りな

### 解説

私はアルバムを見返すことが好きで、2Dである写真のシーンを3Dのミニチュアで表現することで、当時の雰囲気や温度感をより鮮明に思い出せるのではないかと考え、この作品作りに挑戦した。自分の中で特に印象に残っている思い出を抜粋し、アルバムをモチーフにしたボックスの中に表現した。ミニチュアの醍醐味であるリアルさ、質感、細部までの作り込みを意識して1つ1つ丁寧に制作した。



## 日本犬の人気を高めるためのキャラクターグッズ提案

佐藤 陽花

### 解説

テレビ番組で日本古来の6種の日本犬について知り、より多くの人たちにその魅力を知って欲しいと思い、オリジナルキャラクターをデザインしました。全15種類のグッズを展開し、キャラクターたちの日常を描いたストーリーブックも制作しました。日本を表す「和」と、犬の呼称である「わんこ」をかけたブランド「和っこふれんず」は、シンプルで可愛らしく、年頃の大学生にも受け入れられるデザインを目指しました。



## 言葉のコラージュ —言葉をカタチにするビジュアル提案—



影山 由花

### 解説

「言葉を視覚で楽しむ」をコンセプトにコラージュ作品を制作しました。一つの単語でも様々な意味を持つ「言葉」と一枚の作品に様々なビジュアル情報が組み合わせられて完成する「コラージュ作品」を掛け合わせることで言葉を可視化させ、日本ならではの言葉を楽しんでもらうために制作しました。コラージュ作品はそれぞれテーマとなる言葉があり、全てで29個の言葉をテーマにしています。最終的に完成した作品を冊子にし、コラージュ作品とテーマとなった言葉のタイポグラフィや意味を見開き1ページに落とし込みました。





## またくるね。

渡邊 さゆり

象嵌七宝、ロストワックス/銀 50×50×15mm、他 10点



またくるね。



浴衣での装着



ワックス原型



七宝の釉薬を施釉



オブジェとして楽しめる

### 解説

作品のコンセプトは、アオウミガメの子亀が卵から生まれ、命を落としてしまう子もいるなか一生懸命に浜から海へ向かう姿を制作することにより、命の尊さ、生きていく厳しさや希望、個性を表現しました。アオウミガメは、頭やヒレの向きをそれぞれ変え、甲羅の色を様々な七宝の釉薬を使うことにより個性を表現し、11匹を制作しました。それぞれ帯留めやブローチ、イヤリングとして使用することが出来ます。

### プロセス

アオウミガメの子亀が海から浜へ向かっての動画をコマ送りにし、アオウミガメがどのように頭やヒレを動かしているのか、どのように歩いているか確認してから実際にアオウミガメを観に行き、どこからヒレが生えているかなどを学びました。ワックス原型からシルバーに铸造したものに七宝を施し、研磨仕上げ後、ジュエリーの金具をろう付けした裏板をかきめました。甲羅の色では、2種類の色を組み合わせることにより、全体のまとまりをもたせました。

### 講評

アオウミガメの生まれて間もない様子に命の尊さ、生きていく厳しさや、将来への希望を託し作品に表現している。一匹ごとに表情を変えた小さな亀の原型を、ロストワックス技法の銀で制作し、甲羅には象嵌七宝を施している。アイテムは、帯留めからブローチ、イヤリングと豊富で仕事量が多いにも関わらず丁寧に仕上げられていて、作者の作品への想いと真面目さが伝わる。愛らしい亀の行進が楽しく、若者らしい初々しさを感じる優作である。

りくり 井上 あかり 彫金/銀・ラピスラズリ 400×160×16mm

### 解説

「りくり」は漢字で「陸離」と書き「光が入り乱れて美しく輝くさま」を意味する。柔らかい光の印象を与えるため平仮名のタイトルとした。このイメージを美しく魅せるモチーフとして魚の鱗に着目し、着用した際、動く度に鱗が揺れ光や見る角度によって輝きが異なる魅力が伝わるように、鱗が可動式の魚のネックレスを制作した。滑らかに可動させるため鱗はなるべく多くのパーツに分割し、全ての鱗を三次曲面に彫らませ、輝きを強調する工夫をした。



## framo

大隈 苑香 打ち出し/銅・銀メッキ 125×135×70mm

### 解説

丈夫な革質としなやかさを兼ね備えている蛇革の特徴と銅板の加工しやすく柔らかい特徴を活かした肩掛けのショルダーバッグを制作しました。タイトルの「framo」はフランス語の臆病を意味する frais を由来とし、イギリス語でクールを意味する calmo の造語で、クールな女性のイメージと臆病さをもつ蛇の特徴を重ね合わせたデザインになっています。蛇革を忠実に表現するために大、中、小の定盤となめくり鑿を一つ一つ打っていき、蛇の鱗を表現しました。



## 白薔薇と紅薔薇

安保 楓佳 有線七宝/銅 額：140×175×15mm 七宝：80×110×6mm、他 3点

### 解説

グリム童話の「白薔薇と紅薔薇」をモチーフに、有線七宝の壁面装飾の額を制作しました。童話の1シーンである出会いの場面と共に、3人が家で時間を楽しむ様子を想像して表現しています。家の中で過ごすことが増えた現在の生活と重ねながら、物語を読むだけではわからないような部分を表現したいと思いました。額は家の形にし、七宝の作品は4種類のシーンを制作。紙芝居のように七宝が入れ替えられるようにしました。



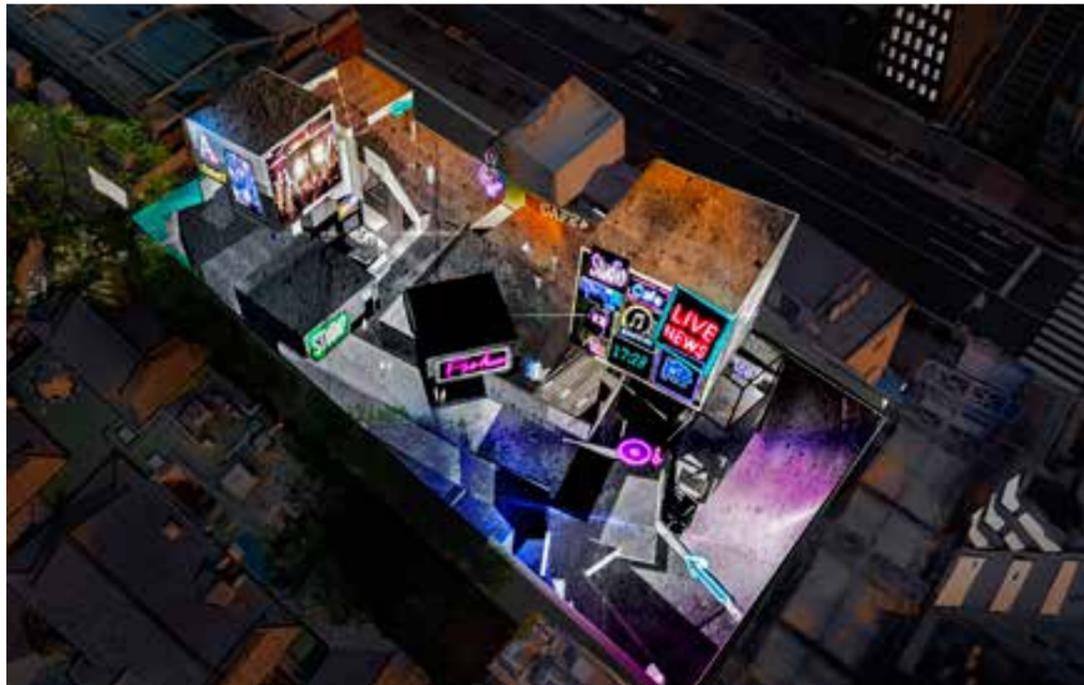


# アンコール

—吉祥寺爆音空間の継承—

伊藤 麗

[制作]



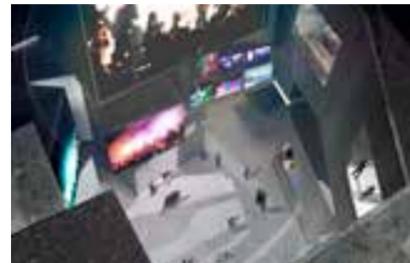
CG パース



模型写真 A



北断面イメージ



CG パース A



模型写真 B



CG パース B



敷地模型写真

## 解説

サブカルチャーの街東京都武蔵野市吉祥寺にライブビューイング施設を提案し、街に点在するライブハウスへ足を運ぶ端緒を開くことを目的とする。敷地を掘り下げ地下で空間を構成することで、地上に余韻が生まれ、人々を引き込む。先に広がる地下広場には弾き語りの歌や室内からの音漏れが聴こえる。夜間にはプロジェクションマッピングを投影し、映像と共に音楽を楽しむことができる。

## プロセス

スマートフォンの普及によって音楽は以前よりも身近なものになったが、同時に音楽体験が必要以上に効率化されてしまっているように感じる。「共有すること」を重要視する現代人が音楽体験をスマートフォンという“箱”の中で完結してしまうことに疑問を持った。自分の世界から一歩外に出て、リアルな場で音楽体験を共有することで世界を広げる。それぞれの“ハコ”を行き来することで新しい音楽や人との出会いを提供する。

## 講評

かつて吉祥寺の映画・音楽文化を象徴する存在であった「吉祥寺パウスシアター」の跡地に目をつけて、その記憶を継承しようとの視点はとてもシブい。土地の記憶に配慮しながら、ポストモダンのサイバーパンクな空間造形を施すセンスは、アナクロを超えて独創的である。往年の爆音上映へのオマージュとして音漏れを意図的に演出する過激さと、地下化することで騒音に配慮する礼儀正しさが共存している点も作者の魂が垣間見えて微笑ましい。

# 駅ホーム上で安心感を与える要因に関する調査研究

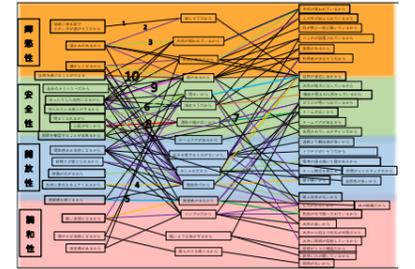
横山 純和 [論文]

## 解説

現在、駅ホームでは様々な事故が起きているが、駅空間はハード面での対策に特化している。しかし私はソフト面に鍵があると考え、駅ホーム上で利用者に安心感(不安感)を与える要因が何であるか調査し、事故減少のための知見を得るため本研究を行った。その結果、単にホーム上の物理的な広さだけではなく、「自然を感じられる工夫」や「周囲を確認できる明るさ」など、安心感(不安感)とは無関係に見える要因が大きな影響を与えていることを明らかにした。



安心感を与える駅ホームの要因



生データからの分類データ

項目	自然を感じる工夫		周囲を確認できる明るさ		統一された色彩など	
	1	2	3	4	5	6
安心感	1	8	3	4	7	9
不安感	1	4	2	8	5	6
関係性	3	12	2	1	13	10
その他	4	13	2	3	17	10
その他	2	2	2	4	7	6
その他	3	2	2	4	6	6
その他	3	2	2	4	6	6
その他	4	2	2	4	6	6
その他	5	4	4	1	4	4
その他	6	1	1	6	2	2
その他	4	1	1	6	2	2

関係性(安心感を与える駅ホームの要因)

# Sou —人生“物語”に寄り添い変化する複合施設—



宮岡 珠里 [制作]

## 解説

人生における結婚式などの様々なライフイベントを行える図書館の新たなステージ: Sou を提案。人が育ち、学び、その成長をサポートできる新たな公共図書館である。本に物語性がある様に、図書館にも思い出になる様なストーリーを込めてデザインした。全体の空間構成としては、本を積み上げた様な外観とし、インテリアや建物の周辺のガーデンでも様々なライフイベントが行え、人と図書館が温かに交流できる仕掛けを多く設けた。

# In the forest ~森の中の教室~

— 広島県山県郡安芸太田町の自然を深化させる交流の場の提案 —

津原 陸斗 [制作]



ときを映す理科室



重なる家庭科室



包み込む図書室

## 解説

自然を深く感じることは、自然を知り、学ぶことに等しく、町の約90%が森林で覆われた安芸太田町はまさに“自然の学校”であるといえる。そこで、この町の5つの観光スポットに「①図書室」「②理科室」「③家庭科室」「④音楽室」「⑤保健室」といった、自然を深化させる施設“特別教室”を計画した。また、各スポットを巡る際の活動拠点として、町にある既存の宿泊施設や空き家、民泊などを活用した、自然の学校における“教室”となる宿泊システムの計画を行なった。



音と水を浴びる音楽室



漂う保健室



# ROOF M

— 島根県隠岐郡知夫村におけるデュアルライフのための環境型複合施設の提案 —

LIU HAOHAO [制作]



全体イメージ



集会所 2F



集会所 1F



集会所 1F 閲覧エリア



配置図



模型写真

## 解説

島根県隠岐郡の知夫村に、「デュアルライフ×ゼロ・ウェイスト」というキーワードに基づいた、「交流、創る、物販」の3つの機能を持つ地域住民が主役の継続的な環境型複合施設を提案した。私が選定した敷地は港を臨む傾斜地で、海との関係を意識しながら、地域特有の船小屋群をモチーフとした屋根の下に、通路と新たな生活空間を創った。誰もが気軽に立ち寄り、長居できる場所を目指す。空間的な連続性だけでなく、デュアルライフの移住者と地元住民、人間と自然が共存する場となることを期待している。

## プロセス

「未来を変えた島の学校」という本を読んだことがきっかけで、隠岐諸島の知夫村のことを知った。知夫村は人口の社会減を抑制するため、「島留学」などの総合戦略を取り込んだ結果、大幅な人口増と人口構成の若返りを達成したが、短期型滞在観光の単一性と増え続けるゴミ排出量という新たな状況も浮き彫りとなっている。そこで、私は知夫村における問題を把握し、良好な地域づくりと島内環境への配慮のため「デュアルライフ×ゼロ・ウェイスト」が生まれた。

## 講評

COVID-19は、世界に恐怖と経済社会への大きな影響をもたらしたが、それに伴う生活の変化は、停滞した日本社会の諸問題を解決する糸口も秘めている。この作品は、環境や過疎地域の抱える問題と対峙し、新たな暮らしの中に地域の伝統的な風景を遺した美しい建築である。土地に馴染み昔から存在していたかのような佇まいは、かつての懐かしい日々から開放された人々が、心地よい海風を感じながら穏やかに時間を重ねていく空間を想い描かせる力作である。

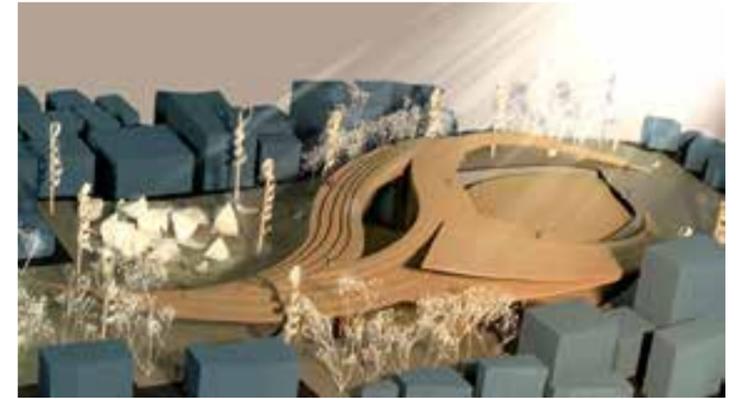
# Shine

— 自殺大国を生き抜くパブリック空間の提案 —

本宮 陽向 [制作]



地下3階 CG イメージ



全体模型写真

## 解説

世界でも有数の自殺大国と呼ばれる日本で、人の心に寄り添う新しい居場所づくりの提案を行うべく、「大地」の力強さ、「木」の温かみ、「光（太陽）」の明るさを感じる空間をコンセプトにパブリック空間を設計した。地面と一続きになる丘のような空間構成は、他の利用者たちの足音や声、活動の音などをさりげなく取り組み、引き籠もりがちだった現代人の心に「自分以外の存在」を認識する余裕を生み出すだろう。



地下2階 CG イメージ



地下1階 CG イメージ

# 高校生に向けたインテリア空間における色彩デザイン教材の提案



オリジナル教材の内容



オリジナル教材の使用イメージ



模型作成キットの完成例

# 吉川 陽菜

[制作]

## 解説

生活を豊かにする材料として空間の配色を楽しんで欲しいと考え、高校生に向けたインテリアの色彩デザイン教材を作成した。思わずやってみたくなる！他の人に共有したくなる！を教材のコンセプトに、色彩の基本知識を学ぶ「パンフレット」、部屋のカラーコーディネートを考えるための「配色検討キット」、初心者でも一定の見栄えがする模型が作れる「模型作成キット」で構成される。2回の検証に基づいて、最終案を作成した。

# 受け入れ、溶け込み、やがて消えてゆく

— 善福寺川における自然と建築の共存 —

宗村 翠 [制作]



うらうら



さわさわ



ぼとぼと

## 解説

東京の多くの自然風景が失われコンクリートで直線化された河川を、自然な変化を受け入れる建築で環境を守る計画。敷地の善福寺川は度々浸水被害を受け2018年から護岸工事も始まり、さらに自然から遠ざけられてしまった。大きく蛇行した河川の形状に沿って川幅を広げ、島を作り治水できるようにした。「ぼとぼと」「うらうら」「さわさわ」「ゆらゆら」「ほろほろ」の5ヶ所を計画。20年30年と汚れて植物により姿が変わり、災害で壊れてしまってもその時に合わせて作り直す。完成はない。



ゆらゆら



ほろほろ

# 卒業研究タイトル一覧

## ● メディア映像クリエイションコース

岩崎 芽衣	赤らむ
内海 美優	GIRLHOOD
大坪 未沙	PuDPuR
大山 諒子	さいて、みつめて、ゆめうつ
何 瑜情	漢方少女図鑑
風早 真実	私源 — SHIGEN —
加藤 佑実	5cm 角のフォルクスメルヒェン
川下 萌々子	ヒトおやすみ、
菊池 菜々子	一般主人公
北上 えりん	カラフル ME # 今日ほどんな私になる?
北園 沙良	たまゆうら ~和歌から掬う女心~
工藤 光	あの頃へ…。
栗山 紗織	ドゥドゥ
黒川 世季名	ロトスコープとイラストアニメを使用した MV 制作
WU QIAN	GOGO.COM
KONG YAXI	マイナス×マイナス=プラス
小守 優衣子	Yowatari-jazu
坂上 鈴果	少年ライター
佐藤 あすか	思い出と歩く
佐藤 瑞希	ひまわりとみた夢
對間 朱	TWO OF US
鈴木 彩加	#1,2,3
大作 美卯	eat eat eat
TANG SUEERN	in the mood for life 生活の気分
ZHANG YICHEN	7 days
綱 海里	ゆるりれいりい
DING HAODONG	HYMNS — プレス・ピース・祈り—
中西 はな	電腦領域
西垣 萌	幸せのカタチ
野口 沙也香	だいすし
原 柚香	Harake プロジェクト
平川 美侑	Cheers!
FANG YILIAN	ねこの日記 ~巡り会い
前田 悠希	人間になったねこ
丸山 紗弥	True Colors
毛 瀛佳	Daily Magazine
柳 美穂	青春るる
柳本 梨帆	文字 moji
吉野 留恵	おはようをさがして
LI TIANCONG	Pills
LIU XUYANG	ペン先からこぼれ落ちた僕の夢
LIU JUNQI	答
渡邊 紗也	ゴリラの小屋チャンネル

## ● グラフィック・プロダクトデザインコース

飯田 瑠音	オリジナルイラストを使用した絵本の制作
岩澤 日向子	信仰系アイドル「LIBRE」のプロモーションデザイン
大木 里奈	大正時代からあるチョコレート店を想定したブランディングデザイン
影山 由花	言葉のコラージュ —言葉をかたちにするビジュアル提案—
金 ミンソ	若い女の子に向けたイチゴウサギのふわふわお風呂セット
侯 寿弘	着物のグラフィック柄と帯の提案
香田 萌菜	トータルプロデュースしたアイドルのアートディレクション及びデザイン制作
小林 秋穂	季節の移ろいを感じる七十二候のカレンダー
小松 美輝	オリジナルイラストを使用したLIVEグッズのデザイン提案
ZHU BENHE	ネットでのコミュニケーションを助けるグッズの提案
CAO YIMING	オリジナル特撮ヒーローコスチュームの提案
高森 乃依瑠	恐竜のメリーゴーラウンド形ランプの提案
田 草	オリジナルテキストスタイルによる雑貨提案
董 悠佳	オリジナル着せ替えボードゲームの提案
中島 璃菜	山口県の特産品を使ったチーズケーキ専門店のパッケージデザイン
沼尻 芽衣	蔵王キツネ村へのキャラクターグッズ提案

表記は以下の順

[学生氏名・タイトル・サブタイトル (細字)]

野口 真綾	ジェンダーレスファッションブランドの提案
FEI YUE	音楽と融合した写真集の提案
肥高 なる実	猫と干支のぬいぐるみ提案
藤谷 幸菜	自身が所属するバンドのプロモーショングッズ提案
松本 莉奈	日常のスイッチについての考察
宮本 有由莉	楽しい造形 五感研究所 —キューブ—
LIU YIMIN	生活に遊び心をプラスする雑貨の提案
秋里 菜々香	おうち時間を豊かにするセルフレアギフトのデザイン提案
伊藤 美瑚	生活に溶け込むオトナ女子向けキャラクターグッズの提案
大貫 莉奈	視覚でも楽しめる香水のブランディング
JIANG HONGHUI	レトロミュージックをテーマとしたオブジェの制作
工藤 美空	日本の季節・行事をテーマにしたネイルデザインの提案
GAO XINGJIAN	Computer Graphics における人体の中の宇宙 —ミクロコスモスの空想表現
小林 花菜	卵料理専門店のブランディングデザイン
佐藤 陽花	日本犬の人気を高めるためのキャラクターグッズ提案
嶋崎 茜	mngmtyo —食感のタイポグラフィデザイン—
高木 麻由	花をモチーフとした季節を感じるお菓子のパッケージデザイン
高瀬 美優	ミュージカル映画のヒロイン像の研究
中内 俊太	革と帯を使ったレザーアイテム制作
中島 琴音	暮らしの中で季節を感じられる商品のブランディングデザイン
長瀬 詩音	写真集 —私を構成する色たちとその世界—
野崎未椰	猫がセルフで楽しめるおもちゃのデザイン
運本 亜悠	グリム童話を切り絵で表現した絵本
林 映里	ファッションをテーマにしたステーションナリー
樋口 奈々子	1週間のサイクルでチョコレートを楽しむブランディング提案
船田 菜々子	オリジナルキャラクターを使ったデザイン提案 ~「ゆめいどツインズ」のグッズ展開~
安河内 りな	私的メモリーボックスの制作
YE YUYANG	バイク用品のブランディングデザイン —若い女性のためのアドベンチャーバイク用品の提案—
吉田 優斗	路上でのスケートボードに寛容になってもらうよう願いを込めたブランディングデザイン
LIU YAOU	文学作品を絵に置き換えるブックデザインの提案

## ● ジュエリー・メタルデザインコース

LEE KAIRUNG	未来科学生物 オブジェ
安保 楓佳	白薔薇と紅薔薇 有線七宝額
石井 沙織	Komorebi ショルダーネックレス
市川 碧深	fushi リング
井上 あかり	りくり ジュエリー
大隈 苑香	framo バッグ
JIANG LINGFEI	狐 置物
小林 瞭子	いつもの 散歩を 思い出に フィルムケース
佐藤 凜	たなごころ ペンダントトップ
田中 綾	百々目鬼 打ち込み象嵌花器
伏見 尚	Fascination ジュエリー
細谷 開耶	SOGI ジュエリー
森重 弥生	花結び ジュエリー
安田 莉子	boite de famille ジュエリーボックス
山口 寛那	flow レリーフ
LI YAFANG	蓮 ジュエリー
渡邊 さゆり	またくるね。 ジュエリー
WEI YUEZE	いのちのからくり ジュエリー
海老沢 優	ひととき 七宝花皿
小畑 亜美	MaToFu アトマイザー
平澤 芹菜	La fleur ジュエリーボックス
弘田 結衣	素敵な時間 カトラリー
宮崎 柚香	Pet's 花器
森 琴乃	Keep Time ジュエリー
八子 仁美	いちごがり ネックレス
LI GUANQI	山海経 ジュエリー
LIU JINGYI	純 ジュエリー

## ● インテリアデザインコース

秋山 潤樹	COVER —緑で包んで魅せる商店街—
飯田 俊樹	入りやすいファサードの研究 —カフェを対象として—
井田 峻太郎	Route+ —エントランスにプラスの価値を—
市川 有美	欲浴空間 (YOKUYOKU) —私らしく居られるジェンダーレス浴場—
内川 廉	色彩が人に与える心理的影響について
YUAN WENXIN	コントロール・インプリメント —監視社会における重慶「两江新区」開発
川崎 顕	古着屋の空間デザインについての研究
菊地 勇氣	壁から離す家具配置
小池 菜衣美 ライラ	若者のサードプレイスとしての図書館の可能性 —大学生のアンケート結果からみる図書館の利用と促進に関する考察—
小林 若葉	交差する時間と空間 —他人と微妙につながる公共の場の提案—
XIE YA JING	仁者乐山, 智者乐水 誰もが「楽」を得られる団地
谷口 晃吉	Mast be Left 日本に残る年内行事
田村 乃々圭	都市における新しい過ごし方を提案する小規模宿泊施設 —間接的に人との繋がりを感ずることのできる空間—
中村 亜子	精神疾患をもつ人が生きやすい街づくり —しあわせな未来のために—
PHAMTHU HIEN	The Fruits Paradise Resort ハノイ近郊に建つ新鮮なフルーツを楽しむリゾートホテル & スパ (SPA) ふれて、つくって、ながれて — 豊洲子ども基地 —
松村 優香	建築物のライトアップによる昼と夜の印象差に関する研究
三好 知奈	Nesting (営巣) —快適な眠りの空間の提供—
武藤 莞奈	働き方と居住の多様化に関する研究
山口 楓太	駅ホーム上で安心感を与える要因に関する調査研究
横山 純和	狭い空間に関する研究
LEE NGO	Inclusion Object ~ 自然の温もり ~ —つくばみらい市に新たな憩いの場を提案—
秋山 淳之介	熊谷市における街並みの地区別比較の研究
市橋 萌香	常盤平団地における地域活性化計画
伊藤 安路	アンコール —吉祥寺爆音空間の継承—
伊藤 麗	私たち世代を感じる*今*な空間に関する研究 —空間における*今*を捉える—
宇野 友佑	照明の種類と心理作用
WANG YITONG	寄木の住宅
荻原 暁	一方通行トイレ —公衆トイレの多様化—
岸 陽治	縁でむすぶ、縁でつなぐ、 —沢尻市の頭学校跡地に児童養護施設退所者の居場所をつくる—
木田 桃花	継ぎ、繋ぐ —工芸品で伝える青森県のアンテナショップ提案—
葛葉 日菜	リズム —朝食を促進する場の提案—
小林 楓	Bond 人を知り、土地を知る事で常陸太田市への移住を促進する場
塩谷 楓	移住の決定要因と地域特性・生活環境の関係に関する調査研究
下川 実咲	Chong JunYan Palette —創造力を刺激する住まいの提案—
高梨 未有	小田原市の観光インフラ整備に関する研究 —まち歩き散策コースの回遊ルートの検証—
高本 有梨花	組子細工の提案 —下北沢駅前計画—
田島 優衣	非接触空間に関する研究 —強迫性障害と新型コロナウイルス感染症対策—
津原 陸斗	In the forest ~森の中の教室~ —広島県山県郡安芸太田町の自然を深化させる交流の場の提案—
鶴見 祐香	「# 推しのいる生活」からみる SNS と空間づくり
TANG YU	殺処分の問題を解決する保護猫カフェ —愛媛県・青島—
庭野 響希	「個々の領域」を持つ公共空間の提案
PAN XINGYUE	庭園に住んでいるのはどんな感じですか? —蘇州における民宿の計画—
細田 舞	仕事とプライベートが共存する住宅の照明計画
松岡 南	暖かい高架下 ~—人親のためのシェアハウス~
宮岡 珠里	Sou —人生*物語*に寄り添い変化する複合施設—
森本 凌	紡 —茶室をインスピレーションした安らぎ空間—
山崎 奈南佳	自分に合う住宅のインテリア空間を見つけるには? —居住者のライフスタイルと色彩の好みの関係に関する調査研究—

## ● 建築デザインコース

SHAO TIANMING	黒川紀章の設計思想と鄭東新区計画についての考察
三浦 達也	世界遺産の写真からみた町並みの魅力についての研究
LEE KAI YU	「Crossing & Connecting」 —ヒトとマチを繋ぎ行き交う高架下複合施設—
LIU RAN	山に還る Remode —自然環境でテレワークを楽しむ空間の提案—
ASAKURA IUZO	ガイアの犯罪 —偽隣へ立ち去った超個体—

井澤 京香	参勤の残影 —小原宿として栄えた町の休憩所—
石井 凌太	ShareTable 食事を通して繋がる集合住宅の提案
大淵 シヤラジェニカ	NEW NORMAL TOWN
片岡 美佳	ソコカラシコ ~爬虫類あふれる集合住宅~
桐谷 優泉	緑と住まいの新しいかたち
久保 麻琴	ON と OFF を切り替えるための住空間デザインについての研究
HUANG ZILIANG	中国における高齢者の住居環境改善のための建築デザインとリフォームに関する研究 —高齢者向け集合住宅の提案と既存住宅のリフォーム—
縹織 麻人	幽々狭郷 —縦断するスタディによる芸術村計画—
後藤 裕樹	現代における有機的建築の提案 —大家の地と共生する家—
小林 奈央	ちよっといいかも…! —暮らしの中でよりみちしたくなるスキマ空間—
齊藤 まさえ	なごみねの住まい —預かりボランティア活動の促進も見据えた「猫コミュニケーション」の提案—
佐藤 佳奈	住宅×重ね着
菅井 利南	燭事 —おひとり様だからこそ楽しめる食空間—
高野 礼華	生活拠点の選択と多様化に関する研究 —近年の書籍・雑誌特集・新聞記事のタイトルと学生アンケートによる考察—
高橋 アユミ	Bom Dia Lotus 神立 —多文化共生団地への改修提案—
竹村 翼	鴻巣市笠原地区のコミュニティ存続と繁栄のための廃校予定小学校の活用計画
CHEN WENSHUANG	都市における立体公園の提案 ~山、水、風、雲の要素を取り入れた憩いの空間~
津金 強	空間における色彩の誘導効果に関する研究 —グラーションサインに着目した分析—
雷櫻 恭香	ウン命の出会い —かけがえのないトイレとの出会い—
中嶋 誠弥	変化する暮らしのかたち —充実したネクストライフ—
NAADAMBAYAR MARAL	GERUDE・ゲルデ —都市に暮らす定着遊牧民の住まいの新たな形—
濱田 裕次郎	Don't think Feel —想いを紡ぐ納骨堂—
PAN BIYUN	上野ほこっ —願想・旅・空間—
HWANG BORAM	災害時の避難施設の提案
宮内 威流	箱型オートグランピング ~新伊香保 SA 新設計画~
宗村 翠	受け入れ、溶け込み、やがて消えてゆく —善福寺川における自然と建築の共存—
山本 柚子	パフォーマンスをとおして書道を広めるイベントスペースの提案
吉川 陽菜	高校生に向けたインテリア空間における色彩デザイン教材の提案
LI YUANYUAN	ESCAPE/ 共存 —コロナ後の武漢・癒しの都市公共空間—
YU HUAN	心の風邪薬研究所 —うつ病療養施設の計画—
内山 里歩	とよののりんご —子どもの地元愛を育む町づくり—
恩河 陽生	働き方の変化による住宅の在り方に関する研究
加賀谷 舞夢	都会から田舎へ ~リタイア後の暮らしの提案~
勝田 里奈	人はなぜカフェ勉強・仕事をするのか —カフェの要素を自宅に取り込む方法・提案—
神田 尚真	入れ子建築の可能性
KU HOPUI	Street Reconnect —シャッター商店街を再活用したマーケットとフードコートの提案—
近藤 隼也	ソラの方舟 —津波・水害に負けない住まいのカタチ—
ZHU LINA	運河の記憶 —中国浙江省温嶺市下町古民家の再生—
筋野 功介	住宅室内の照明方法の実態
永津 優里	「室内生活のすゝめ」に関する研究 —自粛期間の生活から考える—
中西 志音	Enjoyable gaming house —多用するゲームの楽しみ方に応えよう—
中野 拓海	こどもが怖がる空間 —怖さを和らげる建築的工夫—
NI BINGRAN	ペットの森 —飼い主とペットの新しいライフスタイルの提案—
BI FANGYUAN	人の縁を結ぶ場 —多様な活動を生む「円阿弥コミュニティ広場」のリニューアル計画—
FANG RUI	ミニマリズム×住 —ファニチャーレスの集合住宅の提案—
丸山 青空	住宅における生活しやすい明るさに関する調査研究
本宮 陽向	Shine —自殺大国で生き抜くパブリック空間の提案—
山内 雄太	ホテル空間と自己実現
LIU HAOHAO	ROOM —鳥根県岢嵐郡田村村におけるデュアルライフのための環境型複合施設の提案—
LIU CHANGYU	生きがいや幸福感を感じる老人ホームの提案 —五感に豊かかな空間—

# 特色ある教育プログラム

## 卒業研究展 2021 年度の取り組み

今年度の卒業研究展は、当初は、例年通りに2月上旬に20階の大ホールで実展示を行う予定で企画調整を進めてまいりました。併せて、昨年度に引き続き、オンラインによる展示も行うこととしました。しかし、新型コロナウイルス感染症オミクロン株の急拡大に伴い、実展示は急遽中止とし、オンライン展示一本での開催に切り替えました。昨年度蓄積したノウハウを生かして、オンラインだからこそできる「新しい展示」の構築に努めました。今年度はさらに、掲載情報を逐次更新する方式を取り入れて、何度でも訪れたくなるサイトとなるようにするなど、閲覧者目線に立った工夫を施しました。

卒業研究展 2021 年度のおゆみ	
前期	後期
<p><b>4月</b></p> <p>12日 前期授業開始(対面・オンライン併用)</p> <p>23日 オンラインAGより「オンライン授業の実施に伴うFAQ」追加事項通知</p> <p>25日 東京都、3度目の緊急事態宣言発令(～6月20日)</p> <p>20日 東京都、まん延防止等重点措置適用(～9月30日)</p>	<p><b>10月</b></p> <p>1日 後期授業開始(対面授業増加・オンライン併用)</p> <p>8日 教務課より本学学生に「新型コロナウイルスワクチンの接種状況」アンケート実施</p>
<p><b>6月</b></p> <p>5日 「卒業研究展 2021 企画調整 WG」発足。第1回会議開催</p>	<p><b>11月</b></p> <p>9日 学部協議会内で本年度の卒業研究展(実展示)の方針を説明</p> <p>30日 オンライン文化祭「2021 Online Bunka Festival」開催</p>
<p><b>7月</b></p> <p>21日 前期授業終了</p> <p>23日 東京オリンピック・パラリンピック開催(～9月5日)</p> <p>23日 新型コロナウイルスワクチン接種予約開始</p>	<p><b>12月</b></p> <p>6日～1月31日 「第36回 教員研究作品展」オンライン開催</p>
<p><b>8月</b></p> <p>1日 デジタル庁設置</p>	<p><b>1月</b></p> <p>19日 オミクロン株急拡大により1都12県にまん延防止等重点措置適用発表</p> <p>20日 実展示の中止を決定。オンライン展示の充実を検討</p> <p>25日 学長賞プレゼンテーション動画撮影に関する対象者説明会(オンライン開催)</p>
<p><b>9月</b></p> <p>1日～11日 前期授業補講・定期試験期間(一部対面で実施)</p> <p>13日～18日 前期コラボレーション科目(一部対面で実施)</p>	<p><b>2月</b></p> <p>1日 「第52回文化学園大学造形学部卒業研究展」サイト開設</p> <p>7日 オンライン展示サイトに作品制作風景公開</p> <p>12日 オンライン展示サイトにデザイン・造形学科の学長賞・選抜作品公開</p> <p>21日 オンライン展示サイトに建築・インテリア学科の学長賞・選抜作品公開</p> <p>28日 オンライン展示サイトに学長賞・選抜作品以外の全学生作品公開</p>
	<p><b>3月</b></p> <p>初旬 オンライン展示サイトに学長賞プレゼンテーション動画公開</p> <p>10日 オンライン展示サイト全コンテンツ完成。31日まで公開</p>

### 卒業研究作品制作風景

今年度は昨年度と異なり、大学内で卒業研究の作品制作に取り組む学生も多く見られました。残念ながら実物の展示はできませんでしたが、学生が真摯に制作に取り組む姿はオンラインサイトにも公開されることになりました。



生活を豊かにするデザインをめざす造形学部では、学部共通の基礎科目を幅広く設けることで表現の可能性を広げ、デザイナーとしての基礎を築いています。また本学には、学科や学年を超えて開講する「コラボレーション科目」や、学びの目的や目標を考え希望の将来像を具現化していく「キャリア形成科目」があり、企業での就業体験「インターンシップ」や社会や企業と連携する授業を設けています。ここではこれらの特色ある教育プログラムについて報告します。



## Distinctive Educational Program

- 専門教育科目(1,2年次)..... P16
- 専門教育科目(3,4年次)..... P18
- デザイン・造形学科..... P20
- 建築・インテリア学科..... P22

### オンデマンド型授業と対面授業を並行して実施

#### 色彩計画

◎担当教員  
大岡徹、島海薫、造形・色彩学研究室  
◎取り組んだ学生 デザイン・造形学科1年

「色彩計画」の授業ではオンデマンド型授業を中心としつつ対面授業も並行して行いました。オンデマンド型授業では学生がオンライン上の授業へアクセスし、資料(動画、静止画、プリント)で個別に学び、課題に取り組みました。対面授業では、授業内容や配色の実習課題についての細かな質問に答えるなど個別指導を行いました。



配色の実習課題に取り組む様子



教室では授業内で課題を作成するための十分な距離を確保し換気に務めた

### パブリックアートのマケットを制作し それを用いて設置景観図を提案

#### 立体基礎C

◎担当教員  
澤田志功、加茂幸子、松村由樹子(基礎造形研究室)  
◎取り組んだ学生  
デザイン・造形学科2年



対面による木彫制作



木で制作したマケット作品



マケットと景観写真を合成した提案図

立体基礎Cは「公共空間への提案」として、各自素材を選択してパブリックアートのマケットを制作しています。昨年度はすべてオンライン授業でしたが、今年度はそれと並行して希望者による対面授業を取り入れ、木彫やテラコッタなどの対面でしか出来ないような素材の制作が出来ました。

造形学部の学びは、デッサンや立体造形、色彩など共通する基礎知識と技術を習得することから始まり、徐々に専門性を高めていきます。デザイン・造形学科では2年次から、建築・インテリア学科では1年次から各コース専門分野の実習が始まります。

### ガラスオブジェと黄金背景テンペラ画制作

#### アートワークB

◎担当教員 絵画研究室 安高信一、嘉松聡、北岡竜行  
基礎造形研究室 加茂幸子、松村由樹子  
◎取り組んだ学生  
デザイン・造形学科3年



黄金背景テンペラ画



ガラスと銀粘土



ガラスと石粉粘土

アートワークBでは、立体課題として硬質で透明なガラスの性質とその加工法を学ぶ「パート・ド・ヴェールの技法によるガラスオブジェ制作」と、平面課題として装飾的な古典技法を用いて下地から制作する「磨いた金箔を背景にしたテンペラ画制作」の両方を行います。日頃体験出来ない素材や技法での制作は、造形表現の幅を広げる実習となっています。

### 実物を実測してデザインに取り組む

◎担当教員  
建築・インテリア研究室 曾根里子、谷口久美子  
◎取り組んだ学生  
建築・インテリア学科 1年

#### デザインスタジオI「障子の組子デザイン」

伝統的な和の空間における障子の役割や効果を学び、現代の空間で使用する障子をデザインする課題です。枠や棧などの細かい寸法を実測し、実際の大きさをイメージしながら1/5の模型を制作、光の状態で見え方が異なることも確認します。設置場所や使用する場面も想定してプレゼンテーションシートをまとめました。



実際の和室で障子の仕組みを知る



枠や棧など細かい寸法も実測・記録する



1/5 模型の制作



プレゼンテーションシート



桜祭り

### 絞り染と友禅染めを組み合わせたサンプル制作

#### テキスタイルワーク B II

2021 年度より非常勤講師として瀬藤貴史先生をおむかえし、新たな課題として友禅染めに取り組みました。友禅染めは江戸時代から行われた染織技法です。つゆ草の色素「青花」で描く下絵もち米と米ヌカで作る糸目糊置きも細い線のため、手が震えないように息を吸うのも緊張しながら作業をしました。現在残る貴重な染織品も当時の「今」を表現し現代に伝えています。課題で制作する作品も伝統的なイメージにとらわれず、たい焼きやペガサス、宝石など自由な発想をデザインし、それぞれの感じる「今」を表す個性溢れる作品が完成しました。



糸目糊で囲んだ線の中を彩色する



絞り染で防染した絹生地に染めた

◎担当教員 染織研究室  
佐藤百合子、瀬藤貴史(非常勤講師)、森田和子  
◎取り組んだ学生  
テキスタイルワーク B II 3 年

### 実際の仕事を体験

#### キャリアデザイン実践編 (インターンシップ)

◎担当教員 建築・インテリア研究室 丸茂みゆき  
◎取り組んだ学生 造形学部共通 3 年



インターンシップ



インターンシップ



インターンシップ

書類選考や面談の上、夏季休暇中に 1~2 週間の日程で実施しました。昨年はコロナ禍で中止でしたが、今年は感染対策をしっかり行い 14 社の企業様からご協力を得て、学生 24 名が参加。オンラインへの変更や研修自体が中止になるなど残念な例もありましたが、無事に研修を終えることができました。

上級生になると社会的課題に対して論理的な思考と創造的な発想・表現で解決・提案できる力が求められます。学部共通の科目である「インターンシップ」や「コラボレーション授業」は企業とも連携したより実践的な学びの場です。

### ディスカッションや校外学習を通して多角的に学ぶ



ディスカッションの様子



まち歩き (高円寺)



施設見学

◎担当教員 建築・インテリア研究室  
高橋正樹、丸茂みゆき、曾根里子、谷口久美子、横山裕、浅沼由紀、渡邊秀俊、久木幸江、渡辺裕子、岩塚一恵、種田元晴

◎取り組んだ学生  
建築・インテリア学科 3 年

#### インテリアデザイン演習 II・建築デザイン演習 II「プレゼミ」

「プレゼミ」は、建築・インテリア分野の研究にあたり、仮説の立て方、必要最低限の調査・分析手法、まとめ方及びプレゼンテーションスキルを習得する授業です。各指導教員のもとグループディスカッションやフィールドワークを通して学び、その成果を 20 ページ程度の小冊子にまとめました。



成果物 (エッセイ)



成果物 (ブックレット)

### 素材や仕組みを学びデザインに活かす

◎担当教員 建築・インテリア研究室 谷口久美子、横山裕、丸茂みゆき、曾根里子、松谷勉  
◎取り組んだ学生 建築・インテリア学科 2~4 年

#### コラボレーション授業「マンションリフォームマネジャー資格対策講座」・「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」



ショールームで設備の仕組みを学ぶ

#### ハイブリッドでの実技指導



インテリアのデザインでは仕上げ材料や設備機器の知識も必要です。集中授業の機会を生かしてショールームに足を運び、素材の質感を確認したり、コーディネートを検討したり、最新の設備機器にも触れ、それらの体験と知識を活かしてマンションリフォームやインテリアデザインの課題に取り組みました。

### 環境×リサイクル銀から生み出すジュエリー 2021



◎担当教員 金工研究室  
押山元子、春田幸彦、成井美穂、藤澤英恵



◎取り組んだ学生  
造形学部、服装学部、国際文化学部、現代文化学部

#### 銀粘土によるジュエリーの制作 2021

制作キットを送付しオンライン指導。リサイクル銀からアートクレイシルバーを開発した相田化学工業株式会社と SGDS を踏まえたコラボレーション授業として継続しています。毎年テーマを設けて若い感性から生み出されるフレッシュなジュエリー提案を目指して取り組み、第 11 回目のテーマは「希望」、モチーフとして「羽」を使用し、作品制作を行いました。



# 特色ある教育プログラム | デザイン・造形学科

Department of Art and Design

## 文化の革新と継承を学び、現代に息づく匠と美を追求する

### キャリアデザイン(展開編) コースセミナー

「文化の革新と継承を学び、現代に息づく匠と美を追求する」をテーマに、事前学習ではサントリー美術館での刀剣に関する展覧会鑑賞と事後に各感想レポートを提出しました。初日は、Zoomでの鍛刀場オンライン工房見学、2日目は刀剣博物館への見学を行いました。事後学習ではサブカルチャーとの関連したレポート課題を行いました。



刀剣博物館の屋上庭園での講話



刀剣と刀装具の見学



鍛刀場オンライン見学

◎担当教員  
春田幸彦・藤澤英恵 金工研究室  
◎取り組んだ学生  
ジュエリー・メタルデザインコース3年

3年次からはコース別の「演習・実習科目」を中心により実践的・専門的な知識と技術を身に着けます。また「キャリアデザイン(展開編)」や学外と連携した課題を通して、専門性を生かした社会人としての将来像を具体的に描いていきます。

## ニチバン株式会社との商品開発 / 製品企画とデザイン提案

◎担当教員 グラフィック・プロダクト研究室  
星野茂樹、白井信、山田拓矢、山崎裕子  
◎取り組んだ学生  
グラフィック・プロダクトデザインコース3年



プレゼンテーション用のデザインモデル達



デザインモデル製作中!



ベストチーム賞に選ばれました!

### グラフィック・プロダクトデザイン I A

「セロテープ。」でお馴染み、ニチバン(株)の製品開発部からのオーダーに沿って、コンペ方式で3年生が8チームに分かれてチームごとにアイデアをまとめ、製品企画とデザイン提案を企業の方に直接行うというプロジェクト型の授業です。本年度は、「食、住、スポーツという場において、貼る、くっつけることで生活が楽しくなる、便利になる、ちょっと幸せになる何か」を企画・デザイン提案しました。今年で4回目となりますが緊張の中でプレゼンテーションが行なわれ、今回も良い評価を頂きました。

## 文化学園服飾博物館までの道案内イラスト Map のデザイン

◎担当教員 グラフィック・プロダクト研究室 ◎取り組んだ学生  
星野茂樹、白井信、山田拓矢、山崎裕子 グラフィック・プロダクトデザインコース4年

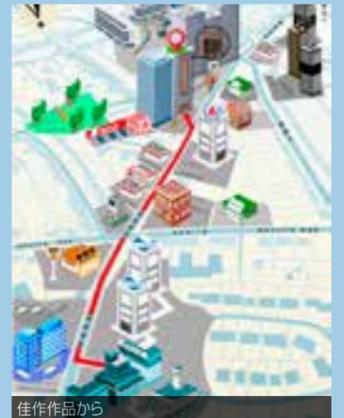
### グラフィック・プロダクトデザイン II B



選ばれた採用作品



佳作作品から



佳作作品から

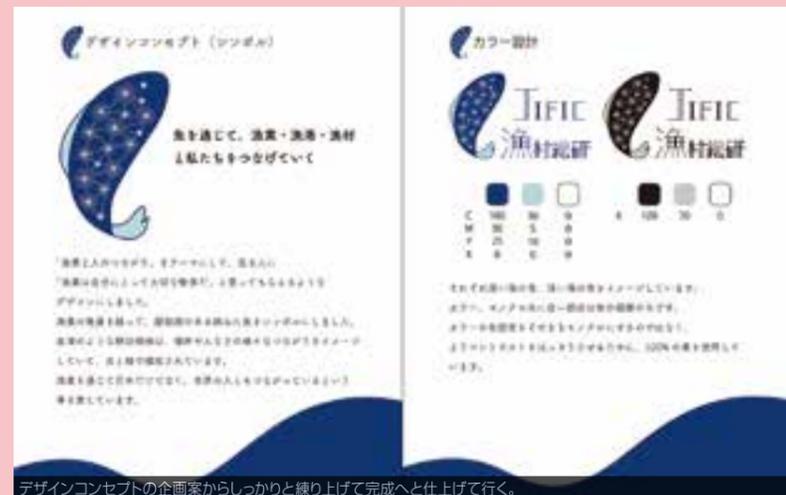
文化学園服飾博物館からの依頼を受け、新宿駅南口から文化学園服飾博物館までの道案内イラストMAP制作に取り組みました。採用作品1点と佳作5点が選出され、採用作品は今後調整を経て今年の春に予定されている博物館のHPリニューアルに合わせて博物館のHPに掲載される予定です。

## 漁村総研ロゴマークデザイン

### ネクストメディア演習

「漁村総研」という研究機関のロゴデザインを制作する課題。実存する組織のロゴデザイン制作ということで、クライアントの背景をリサーチするなど、先方の意向に合うデザインを考える実践的な課題となっています。さらにここで選ばれた学生のロゴデザインは、今後同研究機関のパンフレットや会社案内など、様々な媒体で幅広く使用されていきます。

◎担当教員  
メディア・映像研究室 岡部隆信、遊佐一弥(非常勤講師)  
◎取り組んだ学生  
メディア映像クリエイションコース3年  
◎企画・協力  
キュービシステム株式会社



デザインコンセプトの企画案からしっかりと練り上げて完成へと仕上げて行く。



漁村総研の理事長に出席いただいた際の授賞式を開催



最優秀賞に選ばれ、今後使用されていくロゴデザイン

## 日清食品(株) マーケティング部カップヌードルチームとのコラボレーション授業!

◎担当教員 グラフィック・プロダクト研究室 ◎取り組んだ学生  
白井信、星野茂樹、山田拓矢、山崎裕子 グラフィック・プロダクトデザインコース4年

### グラフィック・プロダクトデザイン II A



プレゼンテーション風景



プレゼンテーションの打ち合わせ

若い女性たちがカップヌードルのファンになってくれるためのデザイン提案をグラフィック・プロダクトデザインコースの4年生が6グループに分かれデザイン提案を行いました。社会と接点を持ちながら行う半期の授業は、学生にとって将来の糧になる時間となりました。



ベスト提案賞に喜ぶCグループ

## 空間を支える仕組みも考えてデザインする

### 建築デザイン演習Ⅲ

◎担当教員 建築・インテリア研究室  
久木華江、谷口久美子  
◎取り組んだ学生  
建築・インテリア学科 建築デザインコース4年

これまでの総括的な演習として、実現可能な小空間のデザインに取り組みます。前半は建築物の様々な形とデザインの可能性について考える建築構造演習、後半は、構造演習を踏まえて自立する美しい小空間をデザインします。



片持ち梁の載荷実験



3つのエチュード成果物



自立する不安定な構造模型



ハイブリッドの授業の様子



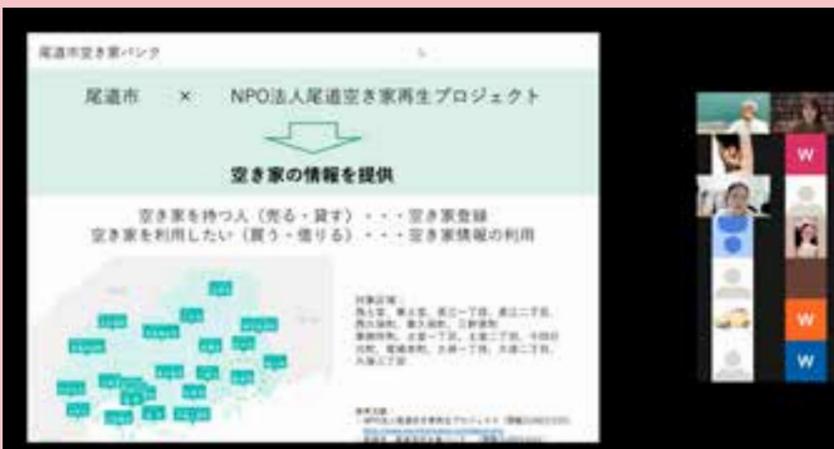
自立する小空間のデザイン成果物

## 建築・インテリア分野のSDGsについて考える

### キャリアデザイン展開編 (インテリアデザインコース)

建築・インテリア分野におけるSDGsについて、各グループで設定したテーマに対する調査、ディスカッション、見学を通し、自身のキャリアや生き方との交点について考察しました。

◎担当教員 建築・インテリア研究室 高橋正樹、岩塚一恵 ◎取り組んだ学生 インテリアデザインコース3年



地域社会における文化や産業を活性化するための活動を通じ、大学での学びを実践することは学生の社会的視野を拡大してくれます。また産業界とのコラボレーションは、実社会で必要とされる社会的配慮やコミュニケーションの重要性を肌で学ぶ絶好の機会です。昨年度は新型コロナ禍の影響で実施できなかった計画は少なかったですが、今年度は新しい取り組みを含め、さまざまな学外連携活動が実施されました。



## External Cooperation

### ● 地域連携活動報告 Regional Alliances

- 01 東京の木“多摩産材”を知る・触れる・広げるプロジェクト [建築・インテリア研究室 丸茂ほか]
- 02 新宿区 中井・落合活性化プロジェクト「染の小道」 [染織研究室 佐藤ほか]

### ● 産学連携活動報告 Academia-Industry Cooperation

- 03 東京商工会議所 第20回「勇気ある経営大賞」PRリーフレット・ムービーの制作 [メディア・映像研究室 牧野ほか]
- 04 デコブラインドコンペティション (株式会社ニチペイとの産学連携企画) [建築・インテリア研究室 曽根ほか]
- 05 第14回文化学園 学生ネクタイコラボレーション展 (東京ネクタイ協同組合との連携授業) [染織研究室 佐藤ほか]

## 01 東京の木“多摩産材”を知る・触れる・広げるプロジェクト

「インテリアデザイン演習Ⅲ」における家具・インテリア小物のデザインと制作

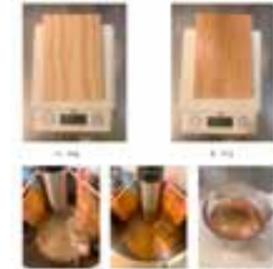
■ 建築・インテリア研究室 丸茂みゆき、菅根里子、菊池光義（非常勤講師）  
参加学生：インテリアデザインコース4年生 56名



デザインに合わせて木目の様子を判断して加工するのは難しい



多摩の木材センターで連携先の方から説明を受け動画作成



木材の特徴を検証して理解を深める



電動工具も使えるように



多摩産のワインを題材にしたデザイン

### 1. 概要

東京都あきる野市「秋川木材協同組合」との地域連携12年目の取り組み。「国産材の現状を調べる」「木に触れてデザイン・制作」「一般の人に身近に感じてもらう」ための企画です。学生が卒業後、建築・インテリア業界に進むにあたり知識だけではなく深い理解を得ることが目的です。昨今は連携当初よりも「地産池消、循環型生活」の機運が社会的に高まりをみせて、年々、参加学生にとって“多摩産材”ブランドの理解が深くなっていると感じます。今年は東京以外の地域や企業の取り組みとも比較しながら理解することを重視して実施しました。

### 2. 今年度の取り組みと成果

自粛期間であったため現地見学は出来ませんでしたが、連携先「中嶋材木店」のご協力で現地の動画を作成して学生と共有しました。実際の多摩産材に触れることは、全員に同寸法の木材を配布して加工体験をしてもらい、接着による反りや水分を含んだ様子、香りなども観察してからデザインを開始。「スケッチ→模型作成→CAD図面作成→制作」の手順は例年と変えずに、実物制作は各自が加工できる範囲のもの、またはCGでの表現の選択制にして、空間まで含めた自由な発想にトライもできました。『国産材への興味きっかけとなるもの』をテーマにクライアントへの意識を徹底させ「自分優先」ではないデザインが出来上がりました。

### 3. 事業の評価と今後の展望等

自分達が普段手に触れている木材が多くの工程と人手をかけて届けられていること、また、自分で加工することで図面に描いても出来ない形があることを、体感として理解できたようです。「失敗を克服するモチベーションと、失敗しない慎重な工程づくりが大事」と感想を述べている学生も居ました。徐々に変わる建築業界と木材産業について学ぶことができましたが、次年度はこの2年間実施できなかった「広げる」活動として一般に共有していけるための具体的な計画を進める予定です。

## 02 新宿区 中井・落合活性化プロジェクト「染の小道」

小さな街を「染」でうめつくす三日間

■ 佐藤百合子、岡本泰子、瀬藤貴史、角谷彩子、森田和子、遠藤樹  
参加学生：テキスタイルワークBⅡ 履修者有志



工程1・型紙を彫る



工程2・防染糊を置く



工程3・顔料を刷り込む



「手芸教室」仕上げ

### 1. 事業概要

江戸時代より染色産業の中心地だった新宿中井・落合地域には、現在も染色関連の業者が点在している。「染の小道」はそんな街の特殊性を活かし、多くの商店などに染色暖簾をかけ、川に反物を架けるなど街中を染物で埋め尽くすイベントである。「染」をキーワードに街の活性化を図る目的で11年前から本格的にスタートした。本学染織研究室では染織の授業を履修する学生を中心に発足時より様々な形で積極的に取り組むことで、学生が地域の中での役割を考える機会を作ってきた。

### 2. 2020年度・2021年度の取り組み

2020年度は新型コロナ禍により開催中止となったため活動が一切できなかったが、2021年度は2022年2月25日～27日に開催された。今回は暖簾制作のみの参加となった。担当した店舗は、アトリエ、居合道場、ギャラリー、醤油の製造販売会社、とんかつ屋、手芸教室などの6件。うち居合道場と手芸教室の暖簾を3年次選択科目「テキスタイルワークBⅡ・Ⅱ」を履修したデザイン・造形学科の学生が担当。染色、縫製までの全ての工程を行った。新型コロナ禍のため店舗からご提供頂いた画像を参考に、イメージを膨らませデザインした。これらの作品はイベント期間中「文化学園大学の小道」というタイトルでグループ化された。新型コロナ禍にも負けずに街を明るく彩るよう、布選びからこだわり、主に型染を用いて制作した。店舗のために責任を持って最後まで制作することの重要性を学んだ。



「居合道場」ろうけつ染

### 3. 2021年度の反省と今後の展望

新型コロナウイルス感染対策として小学校体育館でのブース展示が中止になり、今回は暖簾制作のみの参加となった。2020年度が中止だったためか、イベントに参加していることを知らない学生もいた。そのために参加希望者が例年よりも少なかったのではないかとと思われる。また染色は大学設備を利用して制作するため、感染対策をしながら効率よく作業を進められるよう、学生と教員間でより詳細に制作計画を共有することが求められた。今後はテキスタイルワーク系科目を履修した学生が参加しやすいように環境をつくり、イベントが地域にどのように貢献しているのかを深く理解して参加するのが望ましいと感じた。

# 03 東京商工会議所 第20回「勇気ある経営大賞」PRリーフレット・ムービーの制作

知られざる中小企業の魅力を伝える！

■メディア・映像研究室 星間行雄、牧野昇、荒井知恵、鈴木絵美里（非常勤講師）  
参加学生：メディア映像クリエイションコース4年生 45名



プロの役者を起用しての撮影風景

## 1. 概要

○ 大河ドラマ『青天を衝け』の主人公、渋沢栄一を初代会頭として1878年に設立された東京商工会議所（旧・東京商法会議所）。1960年には小規模企業振興のための経営改善普及事業をスタートし、現在でも中小企業の経営にとって、たよりになる存在となっている。

○ 今回の産学連携授業では、その東京商工会議所（以下、東商）と連携し東商が毎年行っている中小企業の顕彰制度「勇気ある経営大賞」の第20回募集のPRリーフレット・ムービーを制作することとなった。

## 2. 授業の目的と意義

○ 広く社会との接点をもった課題を設定・企画することにより、特に公共領域や企業活動を中心とした社会的な興味や視野を広げることができる。

○ また、学内の教員とのかかわりだけでなく、東商や

各企業の意見・ニーズ等をくみ取りながら自身の映像作品を制作することにより、より質の高い作品作りへのチャレンジが可能となる。

## 3. 企業への訪問

○ 社会経験の少ない学生にとって企業（特に中小企業）のイメージといっても、TVドラマなどを通じたステレオタイプなものが多い。そこで東商にご協力いただき、過去に「勇気ある経営大賞」を受賞した中小企業に訪問することができた。有限会社原田左官工業所、芝園開発株式会社、株式会社華光、株式会社マツブン、株式会社飯田、株式会社ベアーズ、協栄産業株式会社の計7社に学生が訪問し、普段なかなか聞けない各企業の経営者や社員のみなさんの話を直接聞き、仕事の現場や働き方などを体験した。こうした経験を通じて、学生の中小企業に対する画一的なイ



株式会社ベアーズの社内を見学



株式会社マツブンで制作現場を見学



株式会社飯田の商品売場を見学

メージが払拭されていき、より本質的な企画を創出することにつながった。

## 4. PRリーフレット・ムービーの制作

○ PRリーフレット・ムービー制作にあたっては学生が6つのチームに分かれてそれぞれの企画で制作を行った。企業訪問を通じて得た経験、東商や各企業のニーズをしっかり捉えながら、あるチームはドラマ風、あるチームはアニメによる表現など、各チームのメンバーの技術や特色を生かした企画内容を考案した。

○ 制作の各段階（企画、ビデオコンテ、撮影、編集）の進行に合わせて、東商のスタッフを招いてのプレゼンテーションを複数回行った。そこで、進行のチェックやフィー

ドバックを受け、新たに判明した問題や課題に対して、チームの知恵を絞って作品の軌道修正を行った。そうしたプロセスによって、よりニーズに合った質の高い作品作りの方法を学ぶことができた。

## 5. 発表と公開

○ 完成した映像作品は「第20回『勇気ある経営大賞』」のPRムービーとして、東商のホームページで紹介・公開された。（[https://www.tokyo-cci.or.jp/market/keieitaisyo/c\\_detail/](https://www.tokyo-cci.or.jp/market/keieitaisyo/c_detail/)）

○ 2021年9月9日には「第19回『勇気ある経営大賞』」顕彰式典がThe Okura Tokyoで開催され、PRムービーの公開と学生代表者による制作スピーチが披露された。

### チーム「ハビネスラスベリー」

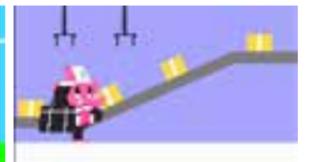
■キャッチコピー  
「でかいぞ、中小」、  
「中小はきっと想像以上だ」、  
「私はチャンスを見逃さない」



内容：実写ドラマ形式のイメージ映像。プロの役者を起用し、経営者の不安やそれに打ち勝つ勇気が天候の変化や演技で表現。「第20回『勇気ある経営大賞』」のPRムービーとして正式に採用が決定。

### チーム「エレファント」

■キャッチコピー  
「中小だって大きいんだぞう。」



内容：厚顔不遜な象（ガネーシャ）をメインキャラクターとした、ファミコンゲーム風アニメ映像。横スクロールの画面をアイテムや技を使いながら、主人公がさまざまな障害をクリアしていくユニークな作品。

### チーム「excel bright」

■キャッチコピー  
「飽きない商いを」



内容：ケイ君とエイちゃんの二人の男女キャラクターによるアニメ作品。二人の主人公がルポライター風に「勇気ある経営大賞」を楽しく紹介。

### チーム「壁を乗り越え隊」

■キャッチコピー  
「あなたの壁の乗り越え方で誰かに勇気を。」



内容：実写とグラフィック要素の強いアニメーションを合成し、ハートに火が灯るスマートな作品。

### チーム「カムカムモンキー」

■キャッチコピー  
「集え」



内容：「集え」をメインテーマに若い頃に困難を乗り越えてきた経営者たちがこの大賞を知ったことによって集まってくる様子を描いたアニメーション作品。

### チーム「株式会社あにまる」

■キャッチコピー  
「たとえ小さな一歩だとしても勇気ある挑戦が未来を切り開く」



内容：会社で働く動物たちのゆる〜いアニメーション。かわいい動物で会社を表現することにより、子供から大人まで親しみやすい内容になっている。

## 04 デコブラインドコンペティション

株式会社ニチペイとの産学連携企画

■ 建築・インテリア研究室 曾根里子、丸茂みゆき、基礎造形研究室 松村由樹子  
 取り組んだ学生：プロジェクトゼミナール科目履修者  
 デザイン・造形学科、建築・インテリア学科 1～4年



参加学生・教員と審査員の皆さん

### 1. 「デコブラインドコンペティション」の概要

ブラインドの老舗メーカーである株式会社ニチペイ（以下、ニチペイ）との産学連携で、学生がオリジナルなブラインドをデザインし、実物を制作する取り組みです。

「デコブラインド」とは、マスキングテープやカッティングシートなどを用いてブラインドをデコレーションし、窓まわりやインテリア空間を魅力的に演出する手法です。

これまでも継続的に実施しており、前回となる2019年度は、造形学部の有志による共同制作として、カフェのブラインドのデザイン・制作を行いました。2020年度は新型コロナウイルスの影響により見送りとなりましたが、2021年度は、造形学部の1～4年生、計18名が参加し、設置場所やコンセプトを学生が自由に設定する形式で、デザインと実物制作、コンペティションによる受賞作品の選出を行いました。なお、デコレーションするブラインドの本体は、ニチペイの提供によるものです。

### 2. デザイン・制作の流れ

2021年度は、「プロジェクトゼミナール」科目として、オンライン授業と対面授業の回を組み合わせ、5月～9月にかけて実施しました。

#### ① 基礎講義とデコレーション体験（対面）

はじめに、対面授業でニチペイ関係者の方にも参加していただき、ブラインドの機能や特徴、デコブラインド作品例などの講義を受けました。またブラインドにデコレーションする素材や方法について教わりながら、練習用のデコレーション体験を行い、制作イメージを膨らませました。

#### ② コンセプト設定とデザイン案の作成（オンライン）

ブラインドの設置場所は、主に自宅内にある窓など、学生



ブラインドの機能やデザインについての基礎講義



ブラインドのデコレーション練習

が実際に実物を制作・設置することができる場所をそれぞれで設定し、空間に合わせたコンセプトやデザイン案を検討しました。対象の窓の大きさや現状確認のため、授業内に各自が自宅等で窓を計測・記録するなど、オンラインでの利点も活用しながら進めました。

#### ③ 中間プレゼンテーションとブラインドの発注（対面）

6月にはニチペイ関係者の方に向けた中間プレゼンテ



オンラインでのデザインチェック



最終プレゼンテーション

ションを対面で行い、コンセプト・デザイン案の発表をしてアドバイスをいただきました。またカタログを見ながらブラインド本体の色を各自で決定し、発注を行いました。

#### ④ デコレーション素材の検討と制作（オンライン）

デザイン決定後は、各自が必要なデコレーション素材の検討・準備を行いました。発注したブラインドが届いた後は、実際の窓に取り付けて確認し、デコレーション作業と仕上げ、写真撮影等を行いました。

### デコブラインドコンペティション 受賞者

#### 最優秀賞 (1名)

クイケン ステラ(グラフィック・プロダクトデザインコース3年)



作品名:「広がる空間 -開放感のあるブラインド-



ニチペイショールーム見学風景

#### ⑤ 最終プレゼンテーションとショールーム見学（対面）

最終プレゼンテーションは対面で9月に実施し、ニチペイ関係者やインテリアデザインの専門家に向けて、学生それぞれが作品のコンセプトや完成写真をスライドで発表。審査によって、最優秀賞1名、優秀賞2名、インテリアビジネスニュース賞1名の計4名の受賞者が選出されました。また同日には、少人数グループに分かれて、ニチペイのショールームを見学しました。

### 3. 今年度の取り組みのまとめ

今年度は、全面的な対面授業での実施が難しかったことから、前回までのような共同制作ではなく、オンライン中心・個人制作を前提に実施しました。そのため、学科・学年を超えた協働や、客観的にデザインを考える経験という点では、やや弱まった面がありました。一方で、個人がより自由な発想でコンセプトを考えることにより、ブラインドの魅力や可能性を感じる作品が創造され、連携企業の方からも好評価をいただきました。また企業との連携を通じて、学生が専門家の意見やものづくりに接し、理解を深める機会となりました。

#### 優秀賞 (2名)

宮本 菜葉香(グラフィック・プロダクトデザインコース3年)



作品名:「ごほん戯画 ペットたちのキャンブ」

#### 迎 万凜乃(デザイン・造形学科1年Cクラス)

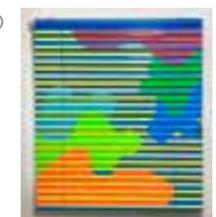


作品名:「海月 -光を使うー」

#### インテリアビジネスニュース賞 (1名)

石井 菜葉美  
 (メディア映像クリエイションコース3年)

作品名:「だまされる 何度見ても6色に見える不思議なブラインド」



# 05 第14回文化学園 学生ネクタイコラボレーション展

新しい生活スタイルへの提案

■染織研究室 佐藤百合子、岡本泰子、角谷彩子、森田和子  
 ■連携企業：東京ネクタイ協同組合、成和株式会社  
 ■対象学生：「デザイン画部門」デザイン・造形学科1年  
 ソフトマテリアル履修学生（課題として）



学内審査風景



協同組合審査風景

## 1. 事業概要

東京ネクタイ協同組合と文化学園大学との連携によるネクタイ振興や若い感性の発掘を目的としたプロジェクト（平成20年より継続中）。2018年度までは染色技法を施した生地でオリジナル性を競う「染めタイ部門」、ネクタイのペーパーデザインを競う「デザイン画部門」、ネクタイ生地や既に縫製されているネクタイをリメイク・装飾する「デコタイ部門」（素材提供：成和株式会社）の3部門開催を続けてきたが、2019年度より「染めタイ部門」を除く2部門開催となる。応募作品は東京ネクタイ協同組合が審査し、各部門別に賞を決定。特に優れた作品には全部門を代表して最優秀賞が授与される。大学からの賞として第10回記念展より「デコタイ部門」に造形学部賞を、第12回展より「デザイン画部門」に染織研究室賞を新設。第13回展ではテーマ毎に優秀賞、造形学部賞、染織研究室賞を設定した。第14回展では募集対象を拡大し全学部対象とした。

## 2. 2021年度の取り組み

今年は担当科目の履修学生に限定して「デコタイ部門」募集を再開。学部外学生の参加も可能とした。「デザイン画部門」は昨年に引き続き造形学部ソフトマテリアル履修学生全員をエントリー対象とし、オンライン授業内で取り組む形での開催となった。

<デザイン画部門> (応募数 テーマA:70点、テーマB:81点、計151点)

テーマA: サステナブル (Sustainable)

副題: 自然環境、限りある資源に心を配る進化

テーマB: ウィズコロナ (With Coronavirus)

副題: 新たなライフスタイルの志向

<デコタイ部門> (応募数 5点)

テーマA: ジェンダーレス (Genderless)

副題: 心で感じる枠を乗り越えた生き方

テーマB: 多様性 (Diversity)

副題: 異なるもの(美)との邂逅

昨年同様、Web文化祭となったため審査会の様子は東京ネクタイ協同組合のHPで紹介、審査結果はオンライン文化祭『2021 Online Bunka Festival』のデジタルブック上で発表された。さらに、全作品展示に代わるものとして応募作品をYouTube動画にまとめ、誌上リンク先より視聴可能とした。ネクタイ協同組合からは斬新なアイデアやメッセージ性のある作品提案は、新しい生活スタイルにおけるネクタイ文化の将来に向けて大変心強いとの激励をいただいた。

●オンライン文化祭『2021 Online Bunka Festival』  
 デジタルブック

<https://saas.actibookone.com/>



Webはこちら▶



デコタイ部門については東京ネクタイ協同組合組合員の成和(株)よりネクタイ生地提供を受けた。募集の場を絞り込んだため応募者は少なかったものの、参加学生は良質な素材に触れ意欲的に取り組んでいた。

## 3. 今年度の反省と今後の展望

小規模ながら対面の機会が増え、目標としていた学部外学生の参加が実現したことは次年度への布石となった。ネクタイを軸に学部を跨いだ多様な取り組みが展開することを期待している。



【東京ネクタイ協同組合和田匡生理事長】

今回のデザイン画部門テーマの「サステナブル」「ウィズコロナ」に対して、若者らしい柔らかく、そして斬新なアイデアが溢れる作品やバランス良くメッセージ性のある作品、秀逸なデザインの作品等々を拝見し、また作画への思いが籠ったコメントを読ませて頂きながら審査をさせて頂きました。デコタイ部門は今回、コロナ禍の影響で応募作品は少なかったですが、今年も両部門とも昨年同様に審査員の票が多く割れ、大変な激戦の末の入選作品決定であったことを併せてお伝え致します。

## ●2021年 ソフトマテリアル ネクタイデザイン



優秀賞 (テーマA: サステナブル)



造形学部賞 (テーマA: サステナブル)



優秀賞 (テーマB: ウィズコロナ)



染織研究室賞 (テーマB: ウィズコロナ)



造形学部賞 (テーマA: サステナブル)



造形学部賞 (テーマB: ウィズコロナ)



染織研究室賞 (テーマA: サステナブル)



染織研究室賞 (テーマB: ウィズコロナ)

### 講評

社会的に重く深刻なテーマを、明るく爽やかな色調によって逆説的に表現した秀作である。自然に選らぬ人工物の静かな異質感を背景にして描かれた生き物たちの躍動感のある動きから、生命の尊さが伝わってくる。

### 講評

「形」の定まらない混とした状況の中から、少しずつ新しい「型」が自然発生的に生まれてくる。こうした変化は、人と人が繋がりを求める意識が原動力となっている。コロナ禍をたくましく生き抜く原理が表現されている作品である。

## 学生ネクタイコラボレーション 受賞者

### デザイン画部門

テーマA「サステナブル」

- 優秀賞 木下 輝美佳 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 優秀賞 迎 万凜乃 (デザイン・造形学科1年Cクラス)
- 造形学部賞 石神 薫乃 (デザイン・造形学科1年Dクラス)
- 染織研究室賞 二宮 風歌 (デザイン・造形学科1年Aクラス)
- 佳作 笹尾 明日香 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 佳作 井上 心通 (デザイン・造形学科1年Cクラス)
- 佳作 山内 環 (デザイン・造形学科1年Dクラス)

テーマB「ウィズコロナ」

- 優秀賞 竹中 涼夏 (デザイン・造形学科2年Cクラス)
- 優秀賞 青山 月穂 (デザイン・造形学科1年Aクラス)
- 造形学部賞 池西 星梨 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 染織研究室賞 紺野 安純 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 佳作 秋山 果波良 (デザイン・造形学科2年Cクラス)
- 佳作 辻川 真以 (デザイン・造形学科1年Bクラス)
- 佳作 金田 あさ美 (デザイン・造形学科1年Dクラス)

## ●2021年 デコタイ部門



優秀賞 (テーマ: 多様性 (Diversity))



造形学部賞 (テーマ: 多様性 (Diversity))

### 講評

異なる風合いの生地をパッチワークのように重ねることで、地球を構成する万物の繋がりを感ぜさせる作品である。サステナブルな社会を構築するための出発点は、多様性を認めることにあることを強く感じさせられる。

### デコタイ部門

- 優秀賞 竹内 勇輝 (ファッションデザイン学科4年Dクラス)
- 造形学部賞 三田 綾菜 (デザイン・造形学科2年Dクラス)
- 佳作 LIU CHANG (デザイン・造形学科3年)

## 第84回新制作展

国立新美術館にて開催の新制作展、スペースデザイン部 ミニアチュール部門に入選。

入選 遠藤 樹 (旧テキスタイルワークコース2016年度卒業生)



[Hang Out]

## 第75回新匠工芸会展

歴史ある染織部門に2点の型染作品が入選しました。

入選 栗原 智子 (旧テキスタイルワークコース2014年度卒業生)



[ミニエウミ]

## 第54回日本七宝作家協会展

- 受賞** 佐藤 日和 (ジュエリー・メタルデザインコース 2019 年度卒業生)  
LAM YIN TING VICTORIA (ジュエリー・メタルデザインコース 2019 年度卒業生)
- 入選** 河野 萌々 (ジュエリー・メタルデザインコース 2020 年度卒業生)  
前田 晴菜 (ジュエリー・メタルデザインコース 2020 年度卒業生)  
山田 栞 (ジュエリー・メタルデザインコース 2020 年度卒業生)



日本七宝作家協会会長賞 佐藤日和 作品名: [eye think]



佳作 LAM YIN TING VICTORIA 作品名: [DUAL SELF]



奨励賞 河野萌々 作品名: [shine]

日本七宝作家協会展は国内外の七宝作家や学生、一般から広く公募され、七宝工芸美術の向上と発展のため開催されています。

## 日本手工芸作家連合 誌上作品展

- 出品** 本多 里衣 (ジュエリー・メタルデザインコース 2020 年度卒業生)  
山崎 華 (ジュエリー・メタルデザインコース 2020 年度卒業生)

## 2021 年度日本建築学会大会 (東海) 学術講演会 若手優秀発表賞

主催: 日本建築学会  
2021 年度日本建築学会大会 (東海) 学術講演会で、建築・インテリア学科建築デザインコース卒業生が「学生発表奨励賞」を受賞しました。本賞は、日本建築学会の若手会員の中から、特に優秀なもの認められた研究発表に対し授与されるものです。

### 若手優秀発表賞 受賞 (建築社会システム部門)

松田 航毅  
(建築・インテリア学科 建築デザインコース 2020 年度卒業生)

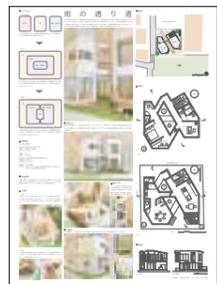
研究発表タイトル: 「多拠点生活の出現とその将来展望」



この研究成果を発展させた卒業制作

## 住宅課題賞 2021

**出展** 渡部 怜 (建築・インテリア 2 年)



一般社団法人東京建築士会が主催する「住宅課題賞 2021 建築系大学住宅作品優秀作品展」が開催され、本学からは建築・インテリア学科 2 年次前期必修科目「住まいの設計」の課題として取り組んだ渡部さんの作品が出展されました。

## 第49回伝統工芸日本金工展

- 入選** 金谷 将介 (大学院 環境工学専攻 2020 年度修了生)  
石原 由菜 (ジュエリー・メタルデザインコース 2019 年度卒業生)  
森下 駿介 (ジュエリー・メタルデザインコース 2019 年度卒業生)  
大迫 玲奈 (ジュエリー・メタルデザインコース 2020 年度卒業生)  
葉山 可南子 (ジュエリー・メタルデザインコース 2020 年度卒業生)

伝統工芸日本金工展は、鍍金、鍛金、彫金の金属工芸の作品を対象にした公募展で、そのうち21+部門は30才未満の作家、および学生を対象とした部門です。



大迫玲奈 作品名: [memory]

## JJA ジュエリーデザインアワード 2021

**入選** 水口 雅月 (ジュエリー・メタルデザインコース 2020 年度卒業生)



水口雅月 作品名: [poly]

JJA ジュエリーデザインアワードは、日本のジュエリー業界における最も権威あるコンペティションとして開催されています。

## 建築文化週間学生グランプリ 2021 「銀茶会の茶席」

### 審査員賞 受賞

Hwang Boram, 宗村 翠, Pan Biyun, Chen Wenshuang, Bi Fangyuan  
(建築・インテリア学科 建築デザインコース 4 年)



建築デザインコース 4 年生のグループが「建築デザイン演習Ⅲ」の課題として取り組んだ作品「結」が、日本建築学会主催の学生コンペ「銀茶会の茶席」で審査員賞を受賞しました。2年ぶりに開催された今年のテーマは「ひとと会」一期一会の席を美しく彩るデザインが評価されました。

## 2022 年 寅年 年賀状コンテスト

主催: ネットスクエア株式会社  
ネットスクエア株式会社と本学とのコラボ企画「2022 年寅年 年賀状コンテスト」が行われ、Web サイトの受注枚数で賞が決定するコンテストになっています。

- 優秀作品 佳作** 中垣 杏優 (グラフィック・プロダクトデザインコース 3 年)  
服部 季海 (メディア映像クリエイションコース 3 年)  
嶋崎 茜 (グラフィック・プロダクトデザインコース 4 年)  
高淵 美優 (グラフィック・プロダクトデザインコース 4 年)  
福岡 さくら (グラフィック・プロダクトデザインコース 3 年)

**入選** 15 点 [14 名]



中垣杏優



### 編集後記

2020 年春から引き続き変化の多い一年でした。昨年度の BZ では COVID-19 禍という未曾有の状況乗り越えるべく教育方法を創意工夫する様子を軸にご紹介いたしましたが、今年度はその中で培った経験を活かし、一步一步着実に対面授業や学外活動の機会を取り戻し、遅く取り組む学生たちの様子がお伝えできればと考えた紙面構成となっています。オンライン化によって見えづらくなった学生の様子が伝わる様な教育の記録としてご覧いただくと幸いです。

このような状況にもかかわらずご協力いただいた先生方、企業の方々、そして本学の今を新鮮に伝えるためのアイデアや企画をご提案くださった編集デザイナーの廣田さまにおかれましては心より感謝申し上げます。

造形学部年間教育活動報告集編集委員

岡本泰子

## 文化学園大学 造形学部年間教育活動報告集 2021

### ● 造形学部専任教員

- |       |      |       |       |
|-------|------|-------|-------|
| 浅沼由紀  | 安高信一 | 荒井知恵  | 岩塚一恵  |
| 遠藤樹   | 大関徹  | 岡部隆信  | 岡本泰子  |
| 押山元子  | 角谷彩子 | 嘉松聡   | 加茂幸子  |
| 北浦肇   | 北岡竜行 | 佐藤百合子 | 澤田志功  |
| 七里真代  | 白井信  | 曾根里子  | 高橋正樹  |
| 谷口久美子 | 種田元晴 | 鳥海薫   | 成井美穂  |
| 春田幸彦  | 久木章江 | 昼間行雄  | 深田雅子  |
| 藤澤英恵  | 星野茂樹 | 牧野昇   | 松村由樹子 |
| 丸茂みゆき | 森田和子 | 山崎裕子  | 山田拓矢  |
| 横山稔   | 渡邊秀俊 | 渡邊裕子  |       |

### ● 造形学部年間教育活動報告集 編集委員

- 谷口久美子 岡本泰子  
安高信一 加茂幸子

### ● 写真提供

- 三守敬次 鈴木義明

### ● デザイン hirotaS / 廣田武志

- 発行: 2022 年 3 月 11 日  
● 発行者: 文化学園大学造形学部 渡邊秀俊

〒151-8523 東京都渋谷区代々木 3-22-1  
TEL. 03-3299-2310 FAX. 03-3370-6202  
http://bwu.bunka.ac.jp

※本誌に掲載されている作品・写真等の無断利用、複製を禁じます。

# 文化学園大学

造形学部 デザイン・造形学科 建築・インテリア学科

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1

TEL. 03-3299-2302 (造形学部長室)

<http://bwu.bunka.ac.jp/index.php>

